

## 2018 年度支部活動【関西支部】開催報告

「外国人の生活支援に関わる教職員のためのワークショップ」  
外国人から体験を聴く方法—司法面接（NICHHD ガイドライン）を学ぼう—

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」

開催日：2018 年 10 月 20 日（土）9：30～17：30

会場：兵庫県中央労働センター 201 会議室

参加者：23 名（会員 14 名・一般 9 名）



面接のふりかえりの様子

今回の支部活動は、昨年度中国支部で開催して好評だったワークショップを、さらにブラッシュアップして関西支部で開催いたしました。近畿地方を中心に西日本各地から日本語教師をはじめ、教育関係者、ボランティアに関わる方、研究者、国際交流に関わる職員など、多職種の方々が一堂に会し、賑やかな雰囲気のもと、ワークショップは始まりました。

ワークショップの趣旨説明の後、午前中は立部文崇先生（徳山大学）による「外国人の会話能力」についての講義と、上宮愛先生（立命館大学）による「司法面接の概要」についての講義がおこなわれました。そして、午後からは、4グループに分かれて、自由報告の練習、DVDを見て出来事を聴くロールプレイ演習、留学生から実際に話を聴くロールプレイ演習をおこない、事実をありのままに聴き出す面接技術について学びました（ロールプレイに参加してくれた留学生が参加者の所属する日本語学校の卒業生だったというような思いがけない再会の場面もありました）。

ワークショップ終了後に書いていただいたアンケートには、「教師はアウトプットばかりさせようとしがちですが、しっかり『聴く』という姿勢も大切にしなければいけないと反省しました。」「書く作業が苦手な学習者には今回の司法面接の手法は役立つ手法であると感じました。」「グループで話したり、ロールプレイで実際に近い留学生の事案に取り組めたのがよかった。」「子どもと外国人の接続、応用にまだ解決すべき手続きがあると思いました。」「留学生に適用するのに少し難しいかと感じました。」「司法面接の学習をもう少し十分にしたい。」などの感想が寄せられました。企画者にとっても、講師にとっても、励みになったり、反省点があったりと、学びの多いワークショップとなりました。

参加者の皆様、ロールプレイに参加してくださった留学生のみなさん、引率してくださった先生、お世話になった方々に心よりお礼申し上げます。

（報告者：羽淵由子・亀田美保）



参加者アンケートの結果（平均値）